

すべての医療者のための感染症総合誌 [ジェイ・イデオ]

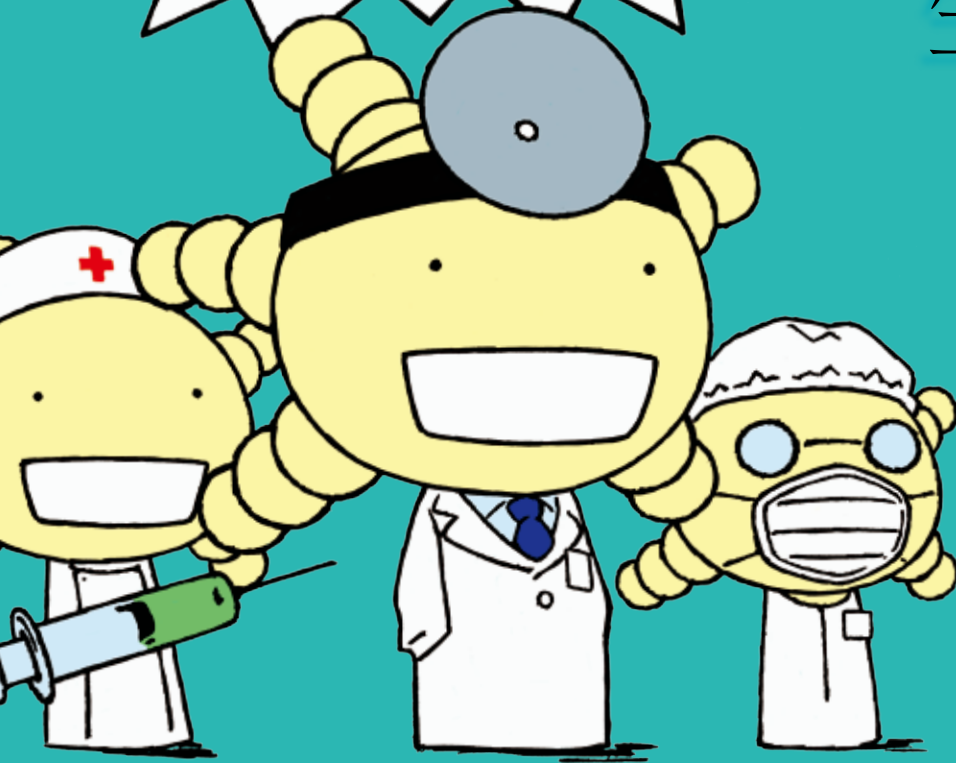
# J-IDEO

0  
2017 vol.0

Journal of Infectious Diseases Educational Omnibus

創刊!

感染症総合誌  
「ジェイ・イデオ」  
ついに誕生



編集主幹 岩田健太郎

2017年  
3月創刊  
隔月刊

創刊準備号

中外医学社

# まったく新しい感染症雑誌

J-IDEOは

速く！ 鋭く！ 正確に！ 感染症の情報を発信します

新型インフルエンザ、SARS、エボラ出血熱、デング熱、ジカ熱……近年の医学的動向を振り返ると、さまざまな感染症が医療者のあいだで大きな話題となり、また社会全体に不安をもたらしてきました。私たちは感染症関連書籍の新刊を多数刊行し、また『抗菌薬の考え方、使い方』を重ねてアップデートするなどして最新

かつ正確な感染症の知識を読者に供することを目指してきましたが、本領域に求められる知識量はいよいよ増大し、単行本という形態だけでは現状に即した情報発信が難しくなりつつあると感じています。そこで私たちは、よりスピーディーな感染症の情報発信を目指し、隔月刊雑誌の創刊プロジェクトをスタートさせました。

編集主幹 岩田健太郎

編集委員

岸田直樹 忽那賢志 坂本史衣  
山田和範 山本 剛

感染症がコンテンツ・リッチな領域であることは、ハリソ内科学を縦に置いて、背表紙の反対側から眺めてみれば、すぐ分かる。領域ごとにページが色分けされている。どの専門分野よりもページ数が多いのが感染症だ。ぼくはハリソ内科学の感染症のところを監視して、改めてこの領域のコンテンツが膨大なことに頭がクラクラしたのである。

コンテンツの豊かさは量の問題のみならず、質の問題でもある。医療が扱う問題は顕微鏡的であり、また望遠鏡的でもある。感染症の顕微鏡的な側面は毎日観察するグラム染色像から身体的に感得できるが、もっとミクロな分子生物学的領域もまた感染症世界を構成する一側面だ。マラリア原虫がいかにして人間の免疫機構を回避するのか。抗HIV薬はこの微細なウイルスのどの部分に作用するのか。微細さはどこまでいってもさらに微細である。逆に、マクロの視点もまた限りなくでかい。公衆衛生学や疫学、感染症流行の数理モデルから水の質管理、地球の温暖化、ジェンダーや貧困といった社会科学の扱う問題、さらには政治経済学までもが感染症世界の構成要素となっている。

コンテンツの豊かさはリスクでもある。我々「専門家」と呼ばれる存在ですら、感染症世界の全てを丸のまま睥睨し、咀嚼することはできない。研究者は研究者の、臨床家は臨床家の、公衆衛生、行政、検査、看護、薬事……様々な立ち場から感染症世界は観察できるが、どの視点から感染症世界を観察しても、その世界全体は見えないのである。完全観察のできない、カントのいう「物自体」だ。だから、自分の視点を離れ、「鳥の目」で上から見たり「虫の目」で細かく見たり、あちこちから眺め直す必要があるのが感染症世界だ。フッサールの「間主観的」眺め直しだ。逆にこのような間主観性に無自覚でいると、己の知っている世界だけが世界の全てと勘違いし、夜郎自大な、雑な把握しかできなくなる。だからリスクなのだ。

質の問題は関係性の問題でもある。病原体とホストの関係性が感染症の像を構成する。感染経路がその流行を規定する。関係性そのものは目視できない。ネット社会において物量的な情報をいくら積み上げて感染世界を把握したことにはならないのは、その

ためだ。そこで雑誌である。出版文化、雑誌文化は終焉を迎えつつあると嘆く向きもある。そうではない、とここで申し上げておきたい。

ネット・サーフィンという言葉があるが、我々は自由に情報の波を泳いでいるのではない。泳がされているのである。グーグルを使おうが、ヤフーを使おうが、そのアルゴリズム化された情報機構は我々に親和性の高い、「我々の見たい情報」しか見せてくれない。よって、情報量の多いネット社会においては、逆説的に我々はどんどん狭量になっていくのである。

感染症世界はコンテンツ・リッチでかつ多様である。世界の全ては睥睨できなくても、我々はそれを見たいという欲望を抑えきれない。そういう欲望こそが感染症屋の持つべきほとんど唯一のプロパティだ。

「己の知る、己の立ち場から見える世界」ではない世界を見てみたい。ぼくらはそれを「冒険」と呼ぶ。冒険は、リスク覚悟で自分たちの知らない未知の世界に飛び込んでいく営為だ。欲望のままに。「ネット・サーフィン」では味わえない感覚だ。

本誌が目論むのは読者諸氏を冒険にいざない、ワクワクさせることにある。そのために「仕掛け」をあちこちに施した。あちこち読み回して、それを発見してほしい。

本誌を手に取り、皆さんがドキドキ・ワクワクと頁をめくっていたら、この上ない幸いである。まるで子どものときにむさぼり読んだ少年ジャンプのように。

創刊にあたって 編集主幹 岩田健太郎

いわた・けんたろう  
神戸大学大学院医学研究科教授

2017年  
3月創刊  
隔月刊

はじめまして。  
J-IDEOです。

「面白くて深い」「次号が気になる！」  
そんな医学雑誌を目指します

雑誌を創刊するにあたって、私たちが重視するのは情報の鮮度ではありません。これからの雑誌のあり方として、個々の連載記事の面白さ、読者との双方向的な情報交換にも力を入れたいと考えています。従来の医学雑誌とはひと味違う誌面構成で、次号が気になる雑誌づくりを目指します。

誰もが感染症を診る時代へ

感染症を様々な角度から学べて、より深く理解でき、さらに興味の裾野を広げてもらえるような多彩なコンテンツを準備しました。

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、その他すべての医療者に開かれた感染症新雑誌の創刊まで、もう少しだけお待ちください！

こんな方におすすめ

医師

- ▶ 感染症診療の基礎をマスターできる
- ▶ 最新知識にアップデートできる
- ▶ 現場で使えるノウハウが学べる

薬剤師

- ▶ 患者対応がわかる
- ▶ 薬剤選択のエビデンスがわかる
- ▶ 臨床薬理の基本がわかる

ナース

- ▶ 感染症ケアの基本がわかる
- ▶ 感染対策チームでの動きがわかる
- ▶ 感染管理のエキスペートを指せる

臨床検査技師

- ▶ 微生物検査の基本がわかる
- ▶ 検査のエキスペートの技が盗める

[ジェイ・イデオ], ついに創刊!!

## 岸田直樹

感染症コンサルタント  
(社) Sapporo Medical  
Academy 代表



感染症っておもしろい。ただ、そのおもしろいがみんな同じではなさそうです。専門家としての立ち位置がある自分だって、「毎日3例は発熱性好中球減少症の患者さんを診たいな」とか、「アフリカ帰りの人を今日は5人も診たぜ!」とか、「HIVを100人外来で診ている」、なんてちょっと“自分は”積極的には希望しないのです。それぞれそれなりに診たいですが……。「風邪を毎週100人診ているぜ!」、「尿路感染症と診っていたら今日も違ったわ……」、「誤嚥性肺炎として抗菌薬freeでいこう」って方が“自分は”いいんですが、岸田みたいなひとの方がむしろ多くはありません……。また、感染対策の専門家はICNですが、自分は感染症コンサルタントとなり、より一層ICDとしての仕事が増えました。「感染症医は臨床感染症が専門であってICDなんて自分の仕事ではない」なんて若者? も増えちゃってますが、自分は感染対策の魅力に取りつかれ始めております。故遠藤藤和郎先生(沖縄県立中部病院 感染症内科部長)のもとで勉強した日々を思い出します。「手を洗わない医療者は、足を洗え!」って幻聴のように毎日聞こえます。

いろいろな人がいろいろ言うかもしれませんが、いろいろなひとが感染症にいろいろ興味をもってくれていることがこの領域ではおそらく一番大切なことだと日々感じます。そして、この雑誌が医療においてこれまでにない形でそれを実現してくれると思います。正直自分は少年ジャンプでは「こち亀」も「ジョジョ」も最初はあんまり好きではなかったのですがちゃんと読んでおらずチラ見程度でした。最初はその程度の連載もあれば読まざるにはいられないものもある。そんな個性豊かな本誌コンテンツをご堪能ください。

感染症の「おもしろい」は人それぞれ

## 坂本史衣

聖路加国際病院  
感染管理室マネージャー



「J-IDEO」は、これまでにない、次号が待てないような、わくわくしながらページをめくりたくなるような、つまり「少年ジャンプ」のようなまったく新しい感染症雑誌である。その編集委員に加えていただけるのは、きわめて光栄であり、軽いプレッシャーである。いや、しかし、この機会を楽しみ、読者の皆さんにも楽しんでいただこうと思う。編集委員として、編集主幹の岩田健太郎先生から私に与えられた使命は、「感染対策」に関する内容を充実させることである。岩田先生、「らじゃ」である。

今の日本では、病院が「本当に感染症を減らせる」対策を取り入れても、褒美も罰も与えられない。そして、医療関連感染が減っても増えても、いや、それすら分からなくても、集団感染が起きて、記者会見でも開かない限り、世の中は気にしない。個々の職員も同じで、感染対策に熱意を燃やそうが、無関心だろうが、人事考課には響かない。このような時代に必要とされているのは、まだ誰も気づいていない問題を指摘し、改善を推進する、超サイヤ人的感染対策担当者(SSIP, Super Saiyan Infection Preventionist)である。SSIP最大の武器は、筋の通った上手な主張と現実には敗けない熱意、別名“現状打破かめはめ波”である。その装備の仕方を本誌で紹介しよう。…次号が楽しみになってもらえたらどうか。

感染症対策に必要な「超サイヤ人的パワー」



# 私たちが編集委員です。

J-IDEOの編集委員を務めていただく5名の先生方に、本誌創刊にあたっての思いを、ざっくばらんに語っていただきました。実はこの「J-IDEO」、編集コンセプトは【「週刊少年ジャンプ」を読んでいて(いる、でももちろんOK!) ときのあのドキドキを、感染症分野の雑誌でも感じてほしい!】というものです。それぞれの先生が週刊少年ジャンプ、もとい感染症分野にかける思いとは?!

「読みやすい・ゆるい」は「簡単」と同義ではない!

岩田健太郎先生から「J-IDEO」創刊のコンセプトを聞いたとき、大人になってから忘れていた少年時代の「わくわく感」を思い出しました。読みやすく、ゆるく、にぎやか、それでいて読者の心をわしづかみにする連載の数々。そんな本誌に自分が編集委員の一人として参加できることは大変ありがたいことでした。と同時に自分も執筆担当になり身の引き締まる思いも強く感じました。

「読みやすい」、「ゆるい」はイコール「簡単」とは限りません。「6歳の子供に説明できなければ、理解したとは言えない」とは現代物理学の父と呼ばれるアルベルト・アインシュタインの名言とされます。「わかりやすい」を追求するのは本当に難しいことだと思います。これに応えられるよう頑張りたいとここに抱負を述べさせていただきます。

本誌の執筆陣は、感染症分野のスペシャリストで構成されており、感染症に興味がある医療従事者であれば誰でも楽しみながら勉強になる内容でいっぱいです。また、連載ものが多いのも特徴で、次号をわくわくしながら待つ楽しみがあることも特徴の一つだと思います。

感染症の世界という大海原に漕ぎ出そうとしている皆さんにとって本誌のコンテンツは羅針盤の役割を果たしてくれるに違いありません。さあ、大海原に漕ぎだしましょう!

## 山田和範

中村記念南病院薬剤部



次号が待ちきれないのが「J-IDEO」と「ジャンプ」

「感染症大航海時代」、ついに来たる!

小学校の頃、毎週火曜日(今は月曜日ですよね)は朝6時に早起きして、近くのコンビニに少年ジャンプを買いに自転車を全力で漕いだ。そして学校が始まるまでに、「ドラゴンボール」や「聖闘士星矢」、「魁!! 男塾」などの連載を貪るように読んでいたものだ。あの頃の少年ジャンプはまさに宝箱のように、少年たちの心をわしづかみにしていたのではないだろうか(もちろん今の少年ジャンプもそうだと思いますよ)。

岩田健太郎先生の「少年ジャンプのような感染症雑誌を作りたい」というお話を聞いたとき、小学生当時のまさに少年ジャンプを読む前のキラキラした感覚が蘇った気がした。感染症の世界は実に広い。必要とされる知識も年々と増大する一方である。C型肝炎の最新治療は刻々と変化し、毎年のように新興感染症は出現し、今日もどこかで新しい耐性菌が生まれているのである。ワンピース風に言うと、まさに大航海時代である。この感染症大航海時代を乗り切るためのバイブルとなるような本が今まさに必要とされているし、それを少年ジャンプの宝箱感とともに読むことができたらどんなに素晴らしいだろうか。

そんなわけで「J-IDEO」を一言で言うと、「感染症大航海時代をサバイブするための少年ジャンプ」ということになる。ぜひ手に取っていただき、ワクワク感をお楽しみいただければ幸いです。

## 忽那賢志

国立国際医療研究センター  
国際感染症センター



## 山本 剛

西神戸医療センター  
臨床検査部



微生物検査をしていると予測を超越した症例に遭遇することがある。そのときの不安感や期待感、躍動感はモチベーションを高めてくれる。グラム染色所見、培養結果や耐性菌の検出など、検出された微生物は患者ごとのヒストリーを濃縮したもので、遭遇の機会を与えられたことに感謝しなければならない。

今回、岩田健太郎先生をはじめとした日本の感染症診療をリードしていく編集委員の先生方、本誌に執筆していただく先生方との出会いも同じなのかもしれない。それは偶発の産物ではなく、あらかじめ与えられた命題であり、感染症を通じてヒト、微生物、抗生剤と社会が触れ合う交差点のような雑誌を作り上げていきたいと思う。

さて、この「J-IDEO」であるが、最初に岩田先生より「少年ジャンプのような雑誌を作りたい」というコンセプトをいただいた。「少年ジャンプ」といえば、月曜日が待ちきれず土曜日に配送が終わったばかりのジャンプを購読するために駅売店へ駆けこんでいたことも懐かしい思い出である。おそらく「J-IDEO」もその大きな期待感で次を待ちきれない読者のために、話題性の高い感染症、臨床微生物、抗感染治療薬と感染管理の情報を毎月お届けする雑誌になると思う。継続購読したくなることは間違いありません。



今月のカビ  
【亀井克彦】

カビの世界は奥深いものの、臨床医にとってはなかなかとつきにくい存在。そこで亀井先生が毎月ひとつのカビを取り上げ、CTや検査値などの所見を交えながらわかりやすく紹介しています。

意外と知らない!?  
へパトロロジー  
【松尾裕史】

感染症のエキスパートでも意外と知らないことも多い!? 奥深いへパトロロジー診療の基礎から最新の知見まで、実臨床に直結する話題をわかりやすく解説します。

移植後感染症  
ケースシリーズ  
【沖中敬二】

実際に移植後の患者さんを診ることがある医師に向けて、ケース&レクチャーで造血幹細胞移植の知識を解説します。

非専門家のための  
HIV感染症との関わり方  
【塚田訓久】

HIV感染症についてすべてを知っている必要はありません。必要な知識を効率よく学習したい非専門家のためにここまでに知っていたら自信を持ってOK!と紹介しています。

怖いようで  
やっぱり怖い結核症  
【大藤 貴】

稀ではあるが縁遠いとも言えない切れない、微妙な距離感の結核症。本連載では、実症例をもとに非専門施設の医療者だからこそ知っておきたい結核診療のノウハウを紹介しています。

統計学のABC  
【吉村健二】

統計学を初歩の初歩から解説。感染症関連の気になるトピックを取り上げつつ、日々の臨床に役立つ統計知識を紹介いたします。統計に対する苦手意識が克服できる!

感染の数学的定義を  
やわらかく  
【西浦 博】

暴露、感染、重症化など感染症を数値で議論する上で欠かせない現象論的定義と数理モデルを利用した記述についてシンプルに「やわらかく」まとめます。

感染症疫学入門  
ズームアウト!  
【石金正裕】

苦手意識の強い人の多い感染症疫学について、医学部生や看護学生にもわかりやすく解説します。疫学を勉強し直したい医師や看護師にもオススメです!

呼吸器感染症よもやま話  
【倉原 優】

ブログ「呼吸器内科」や「本当にあった医学論文」でおなじみの倉原先生が、精巧な肩肘張らずに読める呼吸器感染症の脱力系コラム。



誰も知らない寄生虫の世界  
【中村ふくみ】

寄生虫のエキスパート中村先生をナビゲーターに迎え、興味深い症例や文献、タイムリーなトピックなどを幅広く紹介いたします。

教えて感染症の病理  
【砂川恵伸】

典型的な病理像の解説や組織診断が非常に有用だった症例など、感染症における病理診断について病理医以外の医療スタッフが知りたい事例を解説します。



基礎から臨床につながる  
薬剤耐性菌のハナシ  
【西村 翔】

耐性菌と抗菌薬について基礎・臨床の両面からわかりやすく解説します。



感染症コンサルタントの日常  
Dr.岸田の日常  
【岸田直樹】

臨床感染症・感染対策の両面から、感染症コンサルタントとして活躍中の岸田先生が実際の事例を用いながらそのアプローチについて考察します。



感染症ケースカンファレンス  
道場破り  
【忽那賢志】

お寺巡りをこよなく愛する「仏の忽那」が全国各地のカンファレンスを巡り、さまざまな難症例に対し「top of the somo」形式で臨床推論を進めていきます。



本質の感染症  
【岩田健太郎】

感染症とはなにか? 本誌の編集主幹を務める岩田健太郎先生による感染症の本質をめぐるときの冒険的記録。医学のみならず歴史、哲学、サブカルチャーなどあらゆる話題を横断しながら感染症について骨の髄まで語りつくします。



スペシャルトピック

感染症をめぐる様々なテーマ・トピックを取り上げ、鋭くアプローチします。各領域の第一人者である気鋭のゲストエディターの登場にご期待ください。

# 本誌をいろどるコンテンツたち

一挙公開

連載 32本

感染症分野のエキスパートたちのコンテンツをまとめて読めるのは、「J-IDEO」だけ!

感染症に関するあれもこれも全部求めてやまないあなたに、次号もサービス×サービス!



J-IDEOジャーナルクラブ  
【施設リレー】

海外の主要ジャーナルから感染症関連のトピックを取り上げ、エビデンスサマリーをまとめて解説します。

旬のホットトピック  
【堀 成美】

感染症業界の気になるトピック、よりすぐりの最新ニュースをお届けします。

ここがアカンやろ!  
【リレー連載】

本誌編集委員たちが感染症業界の諸々の事柄に対してときに舌鋒鋭く指摘し、ときに愛のツッコミを入れます!

カンファレンス実況中継  
行政サイドのつばやき  
【伊地智昭浩】

日本全国で開催されている感染症関連のカンファレンスから選りすぐりのものを誌上中継します。

IDEO ABx Column  
【リレー連載】

薬剤師によるリレー連載。毎月ひとつの薬剤を取り上げその薬についての印象や思い入れなど経験ベテラスでの知見を薬剤師ならではの視点から語ってもらいます。

集まれ!! グラ染野郎  
【リレー連載】

グラ染野郎...それは、グラム染色をこよなく愛する医師・技師・薬剤師たちの総称である。日本列島津々浦々の熱いグラ染野郎たちが本誌に大集結!

微生物検査の志士たち  
【リレー連載】

未来の日本を担う若手微生物検査技師たちにスポットを当てたコーナー! 印象的だった微生物、検出時のインパクト、報告時のドキドキ感、clinical Pearlなどについて存分に語ってもらいます。

解決!! 薬剤感受性検査の真意を紐解く解説  
【リレー連載】

感染症の診断時に有用な情報を提供してくれる微生物検査について、検査の特性やプロセス、結果を診療にどう活かすかについてをゲーム感覚でわかりやすく解説します。

微生物検査危機一髪!  
【山本 剛】

全国的臨床検査技師による薬剤感受性検査に関するリレーコラム。

抗菌薬相互作用整理BOX  
【山田和範】

抗菌薬治療を実施するうえであまり影響しない相互作用まで、注意すべき相互作用まで、薬力学、薬物動態双方の視点から解説する実践コラム。明日からできる一歩進んだ薬物治療マネジメント!

知って得する  
消毒薬の使い方  
【白石 正】

いつも何気なく使っている消毒薬。実は正しく使用しないと効果がないどころか感染症を悪化させてしまう使用方を解説します。

ますますTDM  
【望月敬浩】

薬剤師にとってますます重要度が高まるTDM。本連載では2人の薬剤師「やります君」と「できます君」の成長物語をまじえながらその基本や心得を解説します。

抗菌薬選択  
チエックメイトへの道  
【山田和範】

悩める医師のコンサルトに薬剤師はどう答えるべき? 抗菌薬の次の一手やチェックメイトを狙うための確実な一手をどう打つか、会話形式で平易に解説します。

VS 感染対策チーム  
【リレー連載】

感染管理対策を担うことになったってなったら? 人の立場から、病院感染対策の実務における困ったこと、その対処法についてリレーコラムでお届けします。

泣く子も黙る感染対策  
【坂本史衣】

感染対策の選択、導入、定着、評価の際には相手の感情に配慮した調整も必要です。そうしたバランス感覚や、あるある感のある実践的感染対策情報を提供します。



ICDのホンネ  
【リレー連載】

感染管理対策を担うことになったってなったら? 人の立場から、病院感染対策の実務における困ったこと、その対処法についてリレーコラムでお届けします。

坂本史衣の  
泣く子も黙る感染対策  
【坂本史衣】

感染管理対策を担うことになったってなったら? 人の立場から、病院感染対策の実務における困ったこと、その対処法についてリレーコラムでお届けします。



# J-IDEO 編集部からのお知らせ

Now available!  
最新情報は  
Facebookで!

「J-IDEO」編集部のFacebookページでは、創刊号の制作状況・感染症関連ニュースなどを発信中です。



Facebookで  
チェックしてね

Facebook ページへは  
こちらのQRコードから  
アクセス!



## ◆ 定期購読申し込み特典! ◆



本誌定期購読を申し込んでいただいた方全員に抗菌薬関連の情報をコンパクトにまとめたレファレンスツール「J-IDEO 抗菌薬データベース(仮)」\*をプレゼント!

\*商品はiOSアプリとなります。Androidではご使用いただけませんのでご注意ください。

詳細は「J-IDEO」編集部 Facebook ページ等で随時お知らせ致します。

## 概要

誌名	J-IDEO ジェイ・イデオ
創刊	2017年3月
発行形態	隔月刊(奇数月10日発行)
判型	B5判
ページ数	110頁(予定)
定価	本体 2,500円+税
年間購読	初年度特別価格 本体 11,000円+税 2018年度以降 本体 13,500円+税 (1月, 3月, 5月, 7月, 9月, 11月に刊行)

